

平成 27 年度 一般採用試験前期

公 民 (倫理, 政治・経済) 試験問題 (9 頁中の 1)

(人文・社会科学専攻)

(注意) 解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄または枠内に記入すること。正しく記入していない場合には採点されないので注意すること。

1 次の文章の空欄(①)～(⑦)に最も適当な語句を記入し、問 1～問 2 に答えなさい。ただし、同一番号には同じ言葉が入る。

ブツダ入滅後、100年ほどして、仏教教団はブツダの制定した戒律の厳格な遵守を主張する(①)とより柔軟な立場を取る大衆部だいしゅうぶに分裂した。両派はさらに分裂を繰り返す、結局 20 ほどの部派が成立したが、この時代の仏教は今日では部派仏教と呼ばれている。伝統仏教は出家をして、厳しい戒律に従いながら修行を行い、出家者の最高位である(②)を目指すものであった。こうした伝統仏教に対して、紀元前後のころから、仏教の新たな思想形成と改革運動が起こってきた。この運動は、慈悲による利他の行いを重視し、一切の衆生の救済を目指して献身する(③)の道を歩もうとするものであった。彼らはみずからを大乘仏教と名乗り、旧来の部派仏教を劣ったものとして批判的に小乗仏教と呼んだ。この大乘仏教には、すべての衆生に悟りに到達する可能性を認める「一切衆生悉有(④)」という思想があった。

この大乘仏教は中央アジアを経て、中国、朝鮮へと広がり、日本にも 6 世紀に伝わってきた。平安時代になると(⑤)が大陸で天台教学を学び、比叡山延暦寺を拠点として天台宗を広めた。すでに述べたように、大乘仏教は一切衆生を救済しようとする利他の精神をもって修行を行う者を(③)と呼び、いわゆる小乗仏教しょうもんの修行者を声聞えんがく、縁覚とよんで蔑視した。こうした考え方に対して、(⑤)は、初期の大乘経典である『(⑥)』に依拠して、三乗、すなわち声聞乗、縁覚乗、(③)乗はそれぞれ衆生の能力に合わせて仏の説いた教え(方便)であり、最終的には真理は一つであるという一乗思想を唱えた。これに対して、法相宗(1)の徳一は、誰にでも仏になる素質があるという「悉有(④)」という立場を批判し、衆生には悟れない者も存在すると主張して、(⑤)とのあいだで激しい論争を繰り広げた。その後、いわゆる鎌倉新仏教の祖師たちのうち、比叡山に学んだ日蓮(2)は『(⑥)』を重視し、この経典への帰依を意味する題目を唱えることにより、成仏が実現すると主張した。

ところで、すべての衆生に(④)があるという大乘仏教の考え方は、日本において、草木も含めた現象世界におけるすべての存在がすでにそれ自体として悟りを実現しているという「本覚思想」へとさらに発展していく。これは今述べた日蓮宗を含む鎌倉新仏教や、日本の宗教観、さらに文学、美術などにも大きな影響を与えた思想として、比較的近年、注目されるようになった。たとえば、仏教信仰と日本固有の神信仰とが融合した神仏習合の一形態である(⑦)説は、日本の神々は仏・(③)が日本の衆生を救うために姿を変えて現れた存在であるとする考え方であるが、本覚思想はその図式のなかで、仏・(③)よりも自分たちの救済のために姿を現した神々に高い価値を認める傾向を生み、その後の神道理論の発展に影響を与えたことが指摘されている。

問1 下線部(1)に関連して、法相宗の教理の基礎となった唯識思想を無著とともに築き、『唯識三十頌』などを著した人物の名前を記しなさい。

問2 下線部(2)に関連して、当時頻発した災害の原因が、邪法を信じたことにあるとして、もし正法を奉じなければさらに他国の侵略など、より大きな災いが起こることを説いた、日蓮の書物の名前を次の(a)~(e)の中から一つ選び、記号で記しなさい。

- (a) 『正法眼蔵』 (b) 『立正安国論』 (c) 『選択本願念仏集』 (d) 『教行信証』
(e) 『興禅護国論』

2 次の文章を読み、問1～問5に答えなさい。

西洋近代は、人間の持つ「理性」への強い信頼とともに花開いた時代ということが出来る。しかし、現代では、そのような理性主義に異議を申立て、批判的に見る潮流も有力である。それはなぜだろうか。

ひとつには、20世紀が二度の世界大戦を含む戦争の世紀であったことがある。人間の合理的な思考は、必ずしも人類の幸福につながらず、人間の悲惨をよりひどいものにしたのではないかという疑念が生まれたのである。

フランクフルト学派が取り組もうとしたのは、まさにこのような問題、つまり理性によって進歩したはずの文明社会が、なぜナチスによるユダヤ人のジェノサイドのような「新たな野蛮」を生み出したのかという問題であった。同学派の中心人物であったアドルノとホルクハイマーの二人は、1947年に出版した『(ア)』の中で、理性による啓蒙の歩みが、外的な自然だけでなく、感情や衝動など人間の内なる自然も支配しようとした結果、野蛮へと回帰してしまう過程を描き出している。また、同学派に属するフロムは、1941年に出版した『(イ)』の中で、ナチズムに取り込まれていった大衆心理を分析した。フロムによれば、現代人は自由を獲得したが、自由の裏面には孤独感や無力感があり、それに耐えられなくなった人々は、かえって自分を導いてくれる権威を求め、自由を自ら進んで放棄するのである。

フランスで、1960年代に実存主義に代わって台頭してきた構造主義も、理性主義に対する見直しを共有している。西洋近代の中心にあるのは、理性を持った自由な主体である人間が、意識的・能動的に社会を形成しているとする考えだが、これに対して、構造主義は、人間の行動は社会の意識されざる構造によって規定されていると考えた。主体的に行動しているつもりでも、実は無意識のうちに社会構造によって動かされているというのである。構造主義の提唱者の一人である人類学者の(①)は、このような発想に基づいて、未開部族の神話や親族関係の根底にある構造を明らかにした。そして、彼が「野生の思考」と名づけた未開部族の動物や植物を象徴として用いる独特の思考法は、西洋近代における理性中心の思考法に決して劣るものではないと主張した。また、構造主義者の一人とされるフーコーは、1966年に出版した『(ウ)』の中で、中世以降の西洋社会をルネッサンス時代、古典主義時代、近代の三つの時代に区分し、それぞれの時代には特有の思考の枠組みがあったことを明らかにした。この思考の枠組みをフーコーは、エピステーメーと呼んでいる。近代のエピステーメーは、「人間」という概念を生んだ。しかし、20世紀に新たに生まれた諸学、すなわち『夢判断』を著した(②)によって創始された「精神分析学」、(①)の「人類学」、『一般言語学講義』を主著とする(③)によって刷新された「言語学」は、「人間」を中心から追いやり、構造の一項に解消しようとしている。それゆえ、フーコーは、「人間は波打ちぎわの砂の表情のように消滅するであろう」と主張した。

問1 空欄(ア)～(ウ)に入る著作の名前を、それぞれ次の(a)～(g)の中から選び、記号で記しなさい。

- (a) 『言葉と物』 (b) 『孤独な群衆』 (c) 『啓蒙の弁証法』 (d) 『知の考古学』
 (e) 『自由からの逃走』 (f) 『理性の腐食』 (g) 『人間の条件』

- 問2 空欄(①)～(③)に入る人物の名前を記しなさい。ただし、同一番号には同じ人名が入る。
- 問3 下線部(1)に関連して、フランクフルト学派の第二世代に属し、アドルノやホルクハイマーとは異なった道を行き、対話的理性の可能性に期待を寄せた社会哲学者の名前を答えなさい。
- 問4 下線部(2)に関連して、目的を効率よく達成するたんなる手段となってしまった理性のあり方を、アドルノとホルクハイマーは何と呼んだか、その名称を記しなさい。
- 問5 下線部(3)に関連して、アドルノやフロムが説いた、上位者には盲従しながら、下位者には服従を求める現代人の社会的性格を何というか、その名称を記しなさい。

3 以下の文章を読んで、問1～問2に答えなさい。

第1次世界大戦は、兵士だけでも1千万人近くが死亡した未曾有の大戦争であった。米国の大統領 は、この悲惨な戦争は、国家間の に基づいて平和を保つというそれまでの考え方に欠陥があったがゆえに起こったと考えて、1918年1月に発表した「14か条の平和原則」の中で、「国際平和機構の設立」を提唱した。これを受けて、1920年に歴史上初めての 機構として発足したのが、 であった。

とは、ある国家集団において、構成国が、(i)相互間の紛争を武力を行使せずに平和的に解決すること(相互武力不行使)、(ii)それに違反して武力を行使した国に対しては、ほかのすべての構成国が集団的に制裁を加えること、を約束することによって、相互に安全を保障し平和を維持しようとする制度である。 による平和という構想の萌芽は、18世紀に発表されたフランスのサン＝ピエールの『永久平和草案』やドイツの の『永遠平和のために』などに既にみられた。

第2次世界大戦後には、新たな 機構として国際連合(国連)が作られた。国連憲章は武力の行使を禁止しているが、同時にいくつかの例外を認めている。

相互武力不行使の約束に違反した国に対する集団的な制裁の場合が、その一つである。そうした集団的な制裁を実施するために、国連憲章第7章には、加盟国が安全保障理事会と を結んで兵力を提供し、 を組織することが定められている。だが、実際には、そのような「本来の 」は、これまでに組織されたことがない。冷戦終結直後の湾岸戦争は、国連の 制度が機能して平和を回復したとされる数少ない事例であるが、この際も、侵略国に対する集団的な制裁としての戦争は、 によってではなく、米国を中心として構成された によって戦われた。

また、国連憲章では、主権国家は、同盟国など自らと密接な関係にある国が を受けた場合には、自らが直接 を受けていなくとも、武力によってこれに対抗する権利を有するとされている。この権利のことを、 という。

問1 文章の中の空欄に、適切な語を記入しなさい。ただし、同じ番号の空欄には同じ語が入ります。また、問題には、解答用紙に解答方法が指定されている場合があるので、それに従うこと。

問2 国連憲章は、武力行使の禁止の例外として、上の文章に挙げられているもの以外にどのような場合の武力行使を認めていますか。ひとつ書きなさい。

4 以下の文章を読んで、問1～問6に答えなさい。

1989年12月に(①)において米ソの首脳により冷戦の終焉が告げられると、世界の平和は一気に加速するかと思われたが、A国がB国に侵攻したため、1991年には湾岸戦争となった。これに対して、⁽¹⁾国連安全保障理事会の決議に基づく軍事行動によって、B国の独立が回復され、新しい国際秩序が構築されていくように見えた。すでに冷戦期からも西側諸国の間では自由貿易をさらに推進する動きが活発化していたが、1993年末には(②)=ラウンドが大筋で妥結し、GATTに代わる新たな国際貿易機関を設立することも合意され、その合意に沿って1995年には(③)が設立された。こうした世界規模で自由貿易を推進しようとする動き(グローバリズム)の一方で、より小さなまとまりで貿易の自由化などを推進しようとする動きも起こり、⁽³⁾ヨーロッパではEUが発足し、北米でもNAFTAが締結された。

一方、冷戦末期頃から日本では、(④)体制と呼ばれる自民党一党支配のひずみが、佐川急便事件といった疑獄事件の発覚という形で一挙に表面化したにもかかわらず、1990年代に入っても、歴代自民党政権は政治改革にあまり熱心に取り組もうとしなかったため、自民党への国民の支持は大きく揺らぐようになった。その結果、1993年には(⑤)党の細川護熙を首相とする非自民連立政権が誕生した。細川政権の下で(⑥)規正法が改正され、政治改革に一定の進展がもたらされた。

このように国内政治の変動期に重なったため、日本は湾岸戦争といった冷戦後の国際環境の大きな変化に機動的に対応することができなかった。それへの教訓から、1990年代前半には国際貢献の必要が強く認識され、⁽⁴⁾政府は途上国支援の質の向上に積極的に取り組むようになった。その頃国連などでも国際協力などにおいて「人間の安全保障」⁽⁵⁾を追求していくことが、新たに提唱されるようになった。

問1 文中の(①)～(⑥)に入る最も適切な語句を答えなさい。

問2 下線部(1)のA国とB国の組み合わせとして最も適切なものを、以下の(ア)～(エ)の中から1つ選びなさい。

	A国	B国
(ア)	イラン	イラク
(イ)	イスラエル	パレスチナ
(ウ)	イラク	クウェート
(エ)	シリア	レバノン

問3 下線部(2)の内容として最も適切でないものを、以下の(ア)～(エ)の中から1つ選びなさい。

- (ア) 農産物保護の輸入制限への切り替え
- (イ) サービス貿易の開放化
- (ウ) 知的所有権の保護
- (エ) 紛争処理機能の強化

問4 下線部(3)の内容を意味する用語として最も適切なものを、以下の(ア)～(エ)の中から1つ選びなさい。

- (ア) コスモポリタニズム
- (イ) リージョナリズム
- (ウ) プルーラリズム
- (エ) マルチラテラリズム

問 5 下線部(4)に最も関係が深いものを、以下の(ア)~(エ)の中から 1 つ選びなさい。

- (ア) イラク復興支援特別措置法が制定された。
- (イ) 新しい日米防衛協力のための指針が合意された。
- (ウ) テロ対策特別措置法が制定された。
- (エ) 国連平和維持活動協力法が制定された。

問 6 下線部(5)の事例として最も適切でないものを、以下の(ア)~(エ)の中から 1 つ選びなさい。

- (ア) 対人地雷禁止条約を批准するよう他国に働きかける。
- (イ) 危険なテロリスト容疑者の身柄を令状なしで拘束する。
- (ウ) 大麻を耕作する途上国農民の商品作物への転作を促進する。
- (エ) 途上国で女性の地位向上に取り組む NGO を支援する。

5 次の文章を読み、問 1～問 6 に答えなさい。

社会が維持されるためには、そこに一定の秩序やルールがなければならない。しかし、この秩序やルールはどこからやってくるのだろうか。近代以前には、社会の秩序やルールは、変えることのできない自然の摂理に等しいものと捉えられることが多かった。しかし、近代になると社会の秩序やルールは、人々の取り決めた約束事であるとする新たな考え方が生まれてくる。そのような考え方を代表するのが、ホッブズ、ロック、ルソーらの唱えた社会契約説である。

社会契約説の立場に立てば、社会のルールは、自然物ではなく人為的なものなのだから、人々の同意があれば、変更することも可能だと考えることができる。この考え方は、社会の現状に不満を持ち、それを変えたいと願う人々の理論的な後ろ盾となり、市民革命に影響を与えたと言われる。⁽¹⁾

ホッブズは、1651年に発表した著書『(①)』の中で、法も権力もまだ存在していない自然状態において、人々は自己保存のためにどのような手段を用いてもよい権利、すなわち(②)を持っていると考えた。しかし、そうであるがゆえに、自然状態は「万人の万人に対する闘争」を帰結してしまう。そこで人々は、社会契約を結んで相互に(②)を放棄し、それを主権者に委譲する。こうして平和な状態が作り出される。しかし、いったん(②)が委譲されれば、自然状態に回帰しないために、主権者の作る法や政策には逆らってはならないとホッブズは論じている。⁽²⁾

ロックが、1690年に発表した著書『(③)』の中で想定している自然状態は、人々が生命・自由・(④)などについての(②)を有しており、それなりに平和に共存しているような状態である。しかし、自然状態には、成文法や裁判所がないため、(②)の保護は必ずしも確実とは言えない。そこで、人々は相互に社会契約を結び、国家を誕生させたのである。政府に託された権力は、あくまで(②)の保護を目的とするものだから、もしその権力を濫用し、(②)を侵害するような場合には、人々には「天に訴えて」政府を変更する権利があるとロックは主張した。⁽³⁾

ルソーが、懸賞論文『人間不平等起源論』の中で描き出した自然状態は、人々が孤立しており、恒常的な関係を持っていないような状態である。そのため、自然状態において人間は、自由かつ平等である。また、自然状態において人々は本能に従っており、自己愛と(⑤)がその行動を支配しているとルソーは述べている。しかし、文明を持つことで、人間はこの自然状態を離れてしまい、人間社会に支配と隷属が入り込む。ルソーが、1762年に発表した著書『社会契約論』で提起したのは、本来自由であった人間を再び自由にするような共同体を生み出すための契約であった。⁽⁴⁾

問 1 空欄(①)～(⑤)に入る最も適切な語句を答えなさい。ただし同一の番号には、同じ言葉が入るものとする。

問 2 下線部(1)に関連して、ロックが理論的な支柱となり、擁護した革命の名称を答えなさい。

問 3 下線部(1)に関連して、ルソーが影響を与えたとされる革命の名称を答えなさい。

問 4 下線部(2)に関連して、このような考えから、ホッブズが擁護した政治体制はどのようなものであるか、その名称を答えなさい。

問 5 下線部(3)に関連して、このような権利をロックが何と名づけたか、その名称を答えなさい。

問 6 下線部(4)に関連して、このような共同体であるために、法が基づかねばならない意志をルソーは何と名づけたか、その名称を答えなさい。

6 以下の文章を読んで、問1～問4に答えなさい。

景気や物価の安定をはかるために行われる金融政策の手段として、日本銀行が現在用いているのは[①]操作である。この[①]操作とは、日本銀行が金融市場に参加している[②]との間で国債や手形の売買等を行うことによって金融市場の資金量を調節するものである。この資金の供給が需要に比べて⁽¹⁾(a)増加/(b)減少すると、金利は低下する。このため、日本銀行が⁽²⁾(a)買い/(b)売りオペレーションを行うと、金利には低下圧力がかかることになる。日本銀行は特に短期金融市場のうちの一つである[③]市場における金利、いわゆる[③]レートに目標値を設定して[①]操作を行う。しかしながら、この[③]レートが実質的にゼロにまで下がった場合、[④]と呼ばれる金融政策を実施することがある。この[④]とは、[③]レートではなく資金量に目標値を設定して[①]操作を行うものである。日本銀行は[あ]年以降、断続的にこれを実施することで景気の回復やデフレーションからの脱却をはかってきた。デフレーションは一面において貨幣価値の持続的な⁽³⁾(a)上昇/(b)下落を意味するが、この現象に歯止めをかけるためには、現金通貨や預金通貨などをあわせた通貨の総量⁽⁴⁾の^(A)(a)増加/(b)減少が必要となる。日本銀行は金融政策を通してこの通貨の総量に影響を与えることができる。なお、金融政策の手段としては[①]操作以外に、[⑤]操作と[⑥]操作があるが、日本銀行はこれらの手段を現在用いていない。また、[⑤]については、2006年に「基準割引率および基準貸付利率」と名称変更されている。

問1 空欄[①]～[⑥]に入る最も適切な語句を記入しなさい。ただし同一の番号には、同じ言葉が入るものとする。

問2 空欄[あ]に入る数字を次の(a)～(e)の中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

(a) 1981 (b) 1985 (c) 1991 (d) 1995 (e) 2001

問3 下線部(1)～(4)において、(a)、(b)のうちどちらか適切なものを選び、その記号を記入しなさい。

問4 下線部(A)について、現金通貨や預金通貨などをあわせた通貨の総量の英語名称をカタカナで記入しなさい。